



社会医療法人近森会

発行

2016年2月25日

びろっば 3

Vol.356

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel.088-822-5231 発行者●近森正幸 / 事務局●寺田文彦

新 近森オルソリハビリテーション病院

移転後の病棟部門のご紹介 (3・4階)

近森オルソリハビリテーション病院

副院長 看護部長 尾崎 貴美



旧 Olson 病院で開院して 8 年 4 月、今度は新たに旧リハ病院跡に改築移転しました。

新病院では 3 階は一般病棟（一般 14 床・地域包括 30 床）、4 階は回復期リハビリテーション病棟（56 床）となります。

旧病院では個室がなく、受け入れに制限が生じていましたが、新病院では念願の個室も整いました。3 階には個室が 13 室、他 2 人部屋と 3 人部屋でゆったりとした部屋づくりとしました。4 階は個室 9 室、他 3 人部屋と 4 人部屋で、各階とも東西の病棟を渡り

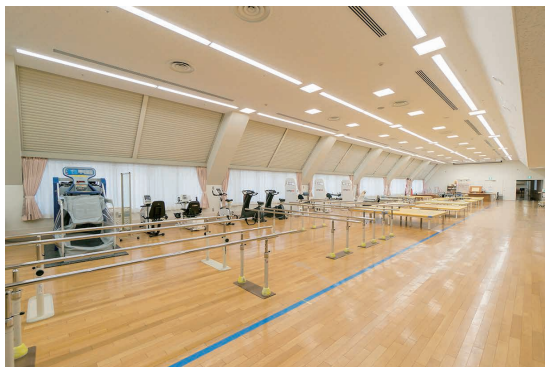
廊下で結び、談話室や食堂スペースも広くつろぎの空間を作りました。

今後は患者さんのニーズにあったお部屋を選択していただき、快適な療養環境で治療していただけるようにハード面が整いました。

おさき きみ



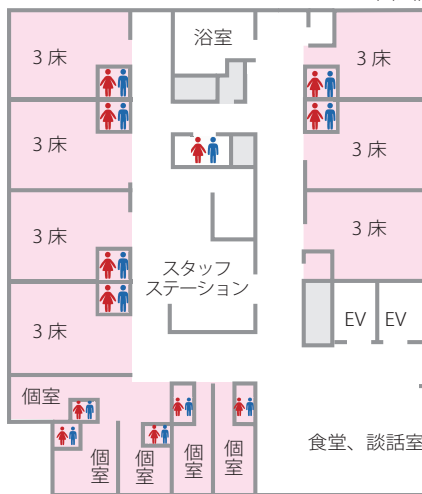
▲正面玄関



▲5階訓練室 ▼優しい色合いを配した病棟



▲個室 ▼3～4人床



3階

※ 4 階は細部が異なります。



変形性股関節症の治療 — 人工股関節全置換術 —

近森病院整形外科
統括部長 衣笠 清人



変形性股関節症の手術治療としては人工股関節全置換術（THA）が昔

から広く行われてきました。本邦では1960年代から骨セメントを使ったTHAが行われるようになりました。

当時の手術法ではスイスのDr.MullerとイギリスのDr.Charnleyがあまりにも有名です。私が整形外科医になった1980年代はまだかれらの手術法が主流でした。しかし、骨セメントは生体にとっては敵ですので、10～20年でゆるみのため再置換術が必要となっていました。また摺動部分に用いるポリエチレンの摩耗もゆるみの

原因となっていました。

その後、生体親和性の高いチタンやハイドロキシアパタイトなどを利用したセメントレスTHAが徐々に普及してきました。現在ではさらにタンタルという元素を表面加工に利用したり、ポリエチレンの分子間結合を強化したり、セラミックの応用などのおかげで初回手術ではほとんどすべての場合セメントを使用しなくてもよくなり、経過中のポリエチレンの摩耗も著しく少なくなっています。

したがって以前は60歳以後に限定されていたTHAも今では40～50歳代で施行されるケースが増えてきています。現在のTHAによるQOL（生活の質）の改善には目を見張るものがありますので、変形による股関節痛にお悩みの方はぜひ整形外科専門医にご相談下さい。

きぬがさ きよと

ハッスル研修医

目指す診療を明確化



初期研修医 松浦 拓也

初期研修医1年目です。高知県で生まれ育った生粋の高知県民で、中学高校とハンドボール部に、大学ではバレーボール部に所属しており、体を動かすことが好きです。南国高知出身にも拘らずスノーボードが趣味で、日々の診療の合間をぬっては県外に滑りに行き、翌日筋肉痛がまんしながら研修をする日々を送っています。「ハッスル研修医」を書かせていただくにあたり、これまでの近森病院での研修を振り返ってみました。辛いこと、思い悩むこと等ありましたが、多くの先生方やコ・メディカルスタッフの方々に日々支えられながら、働かせていただいているなど実感しております。おかげで徐々に仕事にも慣れてきて、少しずつ時間的にも精神的にも余裕ができてきていると感じています。

今後はそのなかで自分が将来したい診療を明確化しつつ、現在自分に足りていないものを吸収しながら研修をしていきたいと考えております。至らぬ点も多々ありますが、今後ともよろしくお願いたします。

まつうら たくや



PS 通信

看護部教育委員会研修に参加して

昨年の10月から今年の1月にかけて行われました、看護部教育委員会研修レベルIII「倫理・組織」において、計3回、30分間のPSサポーターによるミニレクチャーを行いました。そのなかで、組織人の基本マナーについて一緒に考える時間をいただきました。

研修1回目ではPS（参加者満足）について、2回目はそれを踏まえグループワークをおこない、自部署の

見直しと問題提起について、3回目ではその指導の際の心構えを一緒に考えました。なかでも2回目のグループワークでは自部署について日頃の思いがあふれ、いつもとちがった熱気でいっぱいでした。

今回は看護部教育委員会からの声かけで研修に参加させて頂きましたが、このようなPSのレクチャー等も今後も行っていきたいと思っておりますので、お気軽にご相談ください。



今後も「いいね」と言われる病院を目指して、活動を行ってまいりますのでよろしくお願いたします。

PS サポーター

南 博人

「安心してください」
といえる「チーム6C」を
目指しています。

近森病院6C病棟
看護師長 松岡 正美



6C病棟は、整形外科と形成外科の混合病棟で大腿骨頸部骨折・変形性膝関節症・胸腰椎の圧迫骨折といった整形外科の患者さんと、皮膚潰瘍、鼻骨骨折、下顎骨折、褥瘡といった形成外科の患者さんが入院して治療を受けています。それぞれのスタッフが急性期病院という使命を十分に理解し各科の特性を活かしながら、その「患者さんのために」と、日夜考えながら働いています。毎週金曜日の形成カンファレンスでは一人ひとりの患者さんについて全職種が参加し、活発(?)な意見

交換を行っています。

私たちは患者さんを看護するにあたって一人の力は少しですが、何人も職種が意見を出し合えば必ずいい看護やケアにつながっていくと思っています。せん妄症状が出る前に、栄養状態が悪くなる前にと「先手必勝」でいけるよう、チーム全員で考えています。

6C病棟は仕事でも、遊びでも常に全員参加「チーム6C」として「和」「輪」を重視しているつもりです。なにか一つの職種が欠けてもいい看護、ケアに

はつながらないということを全員が理解している病棟であると思っています。病棟自体は出来て約1年3カ月しか経っていませんが、年数以上に結束力を持った病棟だと思っています。これから先も、全職種でディスカッションしながら「患者さんのために」を考えることができる病棟であってほしいと願っています。

「安心してください」「6Cにお任せください」と胸をはって言える病棟へようこそ!! まつおか まさみ

3月の歳時記

スミレ

近森病院画像診断部

クラーク 濱田 さえり
(四国管財株式会社)

3月の花で、スミレが思い浮かびました。調べてみると、スミレの花言葉は、「小さな愛」「小さなしあわせ」「誠実」とあ

りました。

西洋ではバラ(美)・ユリ(威厳)・スミレ(誠実)を兼ね備えた女性が理想といわれ、多くの聖母にささげられているそうです。

はまだ さえり



絵・近森病院
附属看護学校事務局
南幸子

「鮭かねさか」



近森 正幸

夫婦で東京に行ったときには、銀座のはずれのお鮭屋さんによく行っている。「家庭画報」に載っていた大将の握りがあまりに丹精で、志の高さが強く印象に残ったのが最初であった。

初めて訪ねたときは、つけ場がふたつあって弟子の握るところで食べたが、帰るとき、坊主頭の大将と一瞬目があった。以来、いっぺんに好きになって、大将に握ってもらうようになった。ミシュランの一つ星だが、星の数を上げることより常連のお客さんを大事にして、「お客さんのために」と一年中休み無しで働

いている。

予約のあったお客さんの顔を思い浮かべながら朝早く築地でネタを探して、お客さんに喜んでもらうのが嬉しいという。琵琶湖の底にいる小鮎を見つけきたり、親指ほどの紫ウニを握ってくれたり、マグロを一カ月熟成させて出してくれたりする。とはいえ「鮭はシャリが生命」といって、ネタに関してはよく説明してくれる大将だが、シャリに関してはなにも教えてくれない。

大将が舞台の上で演じているその裏側で、下ごしらえなどのバックヤードで働いている人たちの出汁や火の通し方が素晴らしく、大将の包丁を置くコトツというわずかな音に反応して対応するなど、チームプレーの凄さに驚かされる。カウンターは8人しか座れないが、個別対応できる限界なのだろう。

大将はじめスタッフの専門性の高さと情報共有の素晴らしさは、質が高く効率的な高度なチーム医療の究極の姿を見ているようで、いつも院長の目線で感嘆している。鮭職人の枠からはみ出て、グローバルな料理人に大将は上り詰めているように思える。

理事長・ちかもり まさゆき

近森病院 5C 病棟

歯科衛生士 片岡 幸

道後温泉の
ちょっと贅
沢な旅館で
満喫

私の趣味はドライブです。といっても、運転はあまり上手くないのですが（笑）。休日前夜や飲み会の後（100%コーラです）は、海までよくドライブします。数人でわいわいしながらも楽しいですが、一人で頭のなかを整理しながら静かに走るのも味があっておすすめです。

そのドライブのお供として欠かせないのが iPod です。家族や友達の好きな曲やアーティストを集めてプレイリストを作ったり、懐メロから新曲まで入れたプレイリストや冬用、夏用など季節によってプレイリストを作り替えたりもします。おかげで iPod の曲数は 3000 曲を越えました。

車は軽ですが、最近は四国だけでなく中国地方や関西にも足を伸ばすようになりました。そして泊まりで行く時は恒例の行事が…職業病でしょうか、ホテルに置いてあるハブラシは一緒に行った人の分まで持って帰ってきてしまいます。毛先が硬めのタイプが多いため使い道は限られますが、検査入院でハブラシを忘れた患者さんや義歯用のハブラシがない患者さんには重宝しています。去年院内旅行で北海道に行った際は師長さんにもお願いして病棟分を確保してもらいました（笑）。皆さんもホテルに泊まった暁には、余韻と共にハブラシもぜひ持ち帰って下さいね！そして病棟、もしくはお近くの歯科衛生士までご一報をお願いします（笑）。

かたおか さち

ソーシャルワーカーの退院支援

近森病院医療福祉部

主任 西森 史



急性期病院は、救急車などで搬送されるような主に重篤な疾患について、必要な治療を行います。急性期での治療が終了した方は退院に向けて話が進みますが、なかには退院後の生活を不安に思う方もおられます。足腰が弱った、一人暮らし、介助が必要で同じ生活に戻れそうにないなど、不安はさまざまです。

ソーシャルワーカーは面接を行い、今の状態をどう理解し、不安な点は何か、今後の生活をどう考えるのかを聞きながら、患者さんとご家族が今後の生活を選択し決定できるように支援しています。

例えば足腰が弱ったということに対

して、自宅での生活を続けるために介護サービスの内容を検討したり、自宅近くの病院へ一旦転院してリハビリの様子をみながら自宅退院を目指したり、長期療養型の病院へ入院や施設に入所するなどの調整を行います。

急性期病院の役割をふまえ、スムーズに退院ができるようスピードも必要です。求められるスピードがあり、一方で生活の選択は簡単ではない状況も多く、焦ったり一緒に悩んだりの繰り返しです。

退院や転院の準備が整い、「安心した」と言われると、私たちも安心します。

にしもり ふみ

リレー エッセイ

映画 スター・ウォーズ

近森病院

言語聴覚士 濱口 祐旗

「遠い昔、はるか彼方の銀河系で…」のナレーションで始まる、ジョージ・ルーカスが世に送り出した超大作、それがスター・ウォーズです。

2015年12月18日に第7部作目の「フォースの覚醒」が公開となり、再び注目を集めました。この作品の魅力は、とても一言では語りつくせませんが、僕自身が感じる魅力の一つは、『スピノフ作品がとても多い』ということなのです。

本シリーズの本編は当初6部作、後に9部作での構成となっています。映画を実際に観てみると作品間で空白期間が存在し、大きく大局が動いていることもあります。初めは映画が何があったのか気になり、インターネットや書籍で調べました。そこで、多くのスピノフ作品に巡り合い、空白期間の白熱した戦いや駆け引き、感動的な出会いや別れがあることを知り、よりスター・ウォーズに魅力を感じました。



スピノフ作品の中には、空白期間の戦いや出来事を補完する作品、そのシリーズだけでも楽しむことのできる作品、はたまた他の作品との整合性に乏しいが面白い観点から制作された作品など幅広く存在し、まだまだ僕自身も全ての作品を把握しきれいていません。これからも時間にかけて、この魅力的な世界を堪能したいと思います。

皆様も、いちど映画を通してご覧になって下さい。そして興味があれば是非、スピノフ作品にもふれてみてはいかがでしょうか。

はまぐち ゆうき

近森病院整形外科

3カ月間の研修報告

兵庫医科大学 整形外科 河合 光徳

私は兵庫医大整形外科医局に在籍しており、昨年の12月より近森病院整形外科で研修をさせていただいております。河合と申します。

整形外科のなかでも外傷分野に興味があり、今年度は岡山大学整形外科学講座に一年間の国内留学をさせていただいております。その一環といたしまして外傷において最も優れた近森病院をご紹介にあずかり、この度研修させていただくこととなりました。

近森病院ではたいへん驚くようなことがたくさんありました。まずは、毎朝行われているカンファレンスです。全てが英語で繰り広げられていることは非常に新鮮でした。さらには今まで

気づかなかった点を発見することができ勉強になりました。

手術では常に完璧な結果を求め、やり遂げる姿勢はつい「こんなものでえっか」と考えてしまうことがあった。今までの自分を猛烈に反省させられることとなりました。

また、手術室では透視が同時に2台使えたり、急な変更にも対応できるように揃えられた設備はたいへん羨ましく感じました。さらに整形外科医だけではなく、看護師やリハビリスタッフも知識が豊富で意欲がありこの整形外科チームの活気を肌で感じることができました。

最後に衣笠統括部長を始め、全ての



先生方にご指導いただき誠にありがとうございました。病院内だけではなく忘年会や新年会などでは色々な方々と楽しい時間を過ごすことができました。高知の温かい人柄と美味しい料理は想像をはるかに凌ぐものでした。短い間でしたが得たものは多く、衝撃的なことがたくさんありました。

このたびの研修を今後の財産として、患者さんと接していこうと思います。また、学会場などでお会いした時には声をかけさせていただこうと思いますので、今後ともよろしく願い申し上げます。

かわい みつり

献血キャンペーン

ありがとうございました。

2月18日(木)に献血キャンペーンを開催しました。今回は80名の方にご協力いただきました。

ありがとうございました。次回は5月に予定しています。

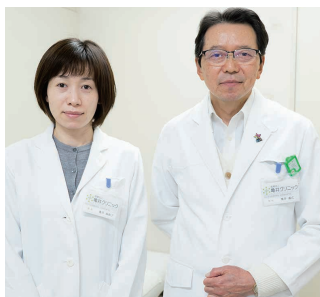


亀井クリニック

泌尿器科/内科
腎臓内科/皮膚科

高知市札場 18-22 〒780-0085
電話 088-885-5533 FAX. 885-6565

2016年1月より、泌尿器科専門医・亀井麻依子医師が常勤しております。男性のみならず、女性の患者様もお気軽に御相談下さい。



院長 亀井 義広
亀井 麻依子

昭和25年12月25日生まれ
高知市出身
趣味：ゴルフ

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00 ~ 12:30	●	●	●	●	●	●
14:30 ~ 18:00	●	●	●	●	●	—

休診は土曜午後、日曜、祝日



特定行為に関する 看護師の研修制度始まる！



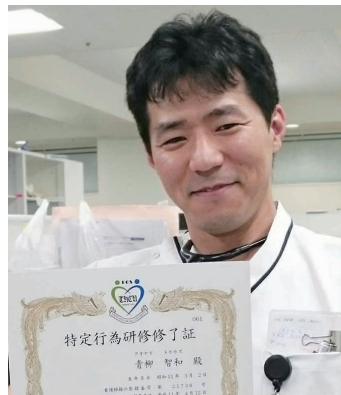
◀看護師特定行為
指導者講習修了証

近森病院 診療看護師 青柳 智和

先月ご紹介したPICCの挿入とともに具体的な活動としてRRS (Rapid Response System) を4月から開始します。RRSとは、状態の悪化した患者さんのもとへ急行し、問診や身

体診察などを行う仕組みです。急変の原因として少なくないものに「重症敗血症」がありますので敗血症の早期発見を第一の目的とし、総合診療科 杉本部長、感染症内科 石田部長の下、状況悪化の患者さんに対し、迅速かつタイムリーに対応するチーム

▼PICC 挿入中の筆者とそれを見守る放射線科宮崎部長



を創設します。

また最も重要なことは病棟の看護師が「おかしい！」と感じることであり、カンファレンスなどを通じて看護師教育にも積極的に関わります。

看護師特定行為指導者講習も修了いたしました。近森病院における特定行為の扉は開いたと思っています。多くの看護師が後に続いてくれることを願ってやみません。

あおやぎ ともかず

お弁当拝見 41 栄養と彩りを考え



近森オルソ
リハビリテーション病院
3階病棟看護師 吉川 幸恵

医聖ヒポクラテス曰く、「汝の食事を薬とし、汝の薬は食事にせよ」、ごもつとも！「あなたは、あなたの食べたもので出来ている」、これもごもつとも！！ということで、私がお弁当を作るときに心にとめていることは、栄養になること、それと彩りです。



このふたつのために、私のお弁当は、赤（ミニトマト）、黄色（卵）、緑（ブロッコリー）の3色以上の彩りとなるようにしています。 よしかわ さちえ



ワイン講座 ● 40

ぶどう品種を知り、個性を探る
黒ぶどう その17

イタリア篇
プリミティーヴォ

タートル・プリミティーヴォ・サレント/ボッジョ・レ・ヴォルピ/プーリア州●南イタリアの豊かな太陽と大地の恵みを受けたぶどうから造られています。ボディ豊かでしっかりとした風味、濃い系ワインお好み方にはうってつけのコストパフォーマンスに優れた1本。

プリミティーヴォはクロアチアで栽培されていた隠れた品種で、アドリア海を超えてイタリア半島の長靴のかかるとに当たる南部のプーリア州で盛んに栽培されている品種です。

アメリカのカリフォルニア州にも渡り、こちらではジンファンデルと呼ばれるようになったと考えられています。中には、プリミティーヴォのほうが、アメリカから輸入されたジンファンデルの子孫だと主張する人さえいるため、どちらが元祖かは定かではありません。さて、その品質と味わいはと言うと、生産地と生産者に大きく左右されますが、この10年ほどで一躍注目に値する品種のひとつに挙げられるようになりました。

果実味豊で肉付きも良く、長い熟成をさせなくても若いうちから気軽に楽しめるものも多く、間違いなく素晴らしいポテンシャルを秘めています。この品種の将来は、カベルネやメルロと並ぶ高品質なワインとして進化していくと考えられますし、現在もそのようなワインは存在します。



鬼田知明 (有限会社鬼田酒店代表)

出張報告

2015年12月21~24日

規模も実態も異なる
栄養サポート in 中国臨床栄養部
部長 宮澤 靖

2015年12月21日より北京大学人民医院（北京大学医学部附属病院）のお招きにより「The Enteral nutrition techniques for critical care patients in Japan」という演題で講演をして参りました。北京大学人民医院は1,800床と考えられない規模ではありますが「当院は小さいほうの病院で」と説明されました。

医療制度があまりにも違うので最初は双方で理解ができず苦慮しましたが、いちばん大きな差は「臨床栄養士と栄養士」の差です。中国で「臨床栄養士」というと“医師”（正確には栄養医師）に当たり、我々のような業務内容を行っている先生方は全て医師免許を保有しており、栄養士とは厨房での業務をしている方々を指しています。

人民解放軍第一病院（通称301病院）も訪問することができ、「栄養医師」の先生と意見交換をして参りました。301病院は、共産党幹部や軍幹部が入院される名門病院であります。病床数は驚きの3,600床で300床クラスの病棟が敷地内にそびえ立っているという形態でした。301病院は「軍事施設」となるため病院に入るだけでセキュリティチェックを受け、施設内及び患者はもちろん職員も撮影禁止で、軍服の方や装甲車が施設内を巡回していました。

肝心の栄養サポートの実態はというと日本と比べると「20年遅れ」という印象でした。糖尿病患者だけで6.6億人もいるとのことで、今後も要請を受けており、自分の経験が少しでもお役に立てればと考えています。

たくさん印象に残った視察、講演でしたが、看護師さんが「ナースキャップ」をされていて、とても懐かしく思いました。

みやざわ やすし



◀ 講演会の様子

▼北京大学人民医院腎臓内科医局員の先生方（前列中央筆者の向かって左が石教授）



2016年1月16~19日

アメリカ静脈経腸栄養学会
(ASPEN) 参加とエモリー大学
医学部附属病院見学近森病院臨床栄養部
鈴木 絵梨奈

アメリカ静脈経腸栄養学会（ASPEN）に参加してきました。今年のトピックスは、ICUでの栄養管理、腸内細菌叢、静脈栄養、ビタミンD等でした。

印象的だったことは、経腸栄養開始時の評価方法としてGRV（gastric residual volume 胃内残量）を見ますが、GRVが500mlと200mlの群を比較したときに消化管トラブルに差がなかったため、以前ほど重要視されなくなったことです。

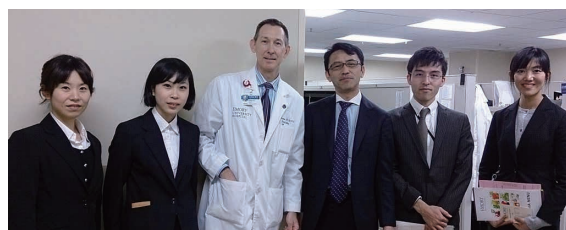
静脈栄養のグループセッションでは、酸塩基平衡やrefeeding syndrome、水分管理について等、10個ほどのテーマがあり、症例検討形式で討議及び講義が行われました。内容は、当院のNSTカンファレンスで、理事長が指導して下さることと近く、アメリカではそれを栄養士が理解出来た上で、討議しており、日本はレベルアップが必要だと感じました。

また当院では患者の栄養評価の一つとして、骨格筋量をCTで腸腰筋や背筋の量を視覚的に評価しています。ASPENでも骨格筋の評価方法が話題となっており、今後5年以内にCTで筋肉量を測定できるようになるそうです。現在、海外では、骨格筋の評価にエコーを用いており、今後当院でも栄養評価に取り入れていけたら良いと思いました。

今回、ASPENに参加させていただき、自分たちが積極的に研究を行い、エビデンスを作り、栄養士の存在意義を作っていく必要があると感じました。

学会終了後はエモリー大学医学部附属病院を見学し、NSTのバーグマン先生に院内見学とNSTテクニックの手法を指導頂き、良い研修ができました。

すずき えりな



◀ エモリー大学バーグマン先生に直接指導を受けた



ニューフェイス ①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど



上村 由樹

うえむら よしき ①血液内科部長医師②徳島県③高知大学④毎年、検診のたびに増える腹囲と中性脂肪に立ち向かうべく、3～4年前から学生時代に覚えたテニスを再開しました。

職員旅行

ハワイでおもいきり、楽しんできました。

▶マンタウォッチで海へ

▼溶岩の上でお弁当



◀フラダンス像の前で

人の動き 敬称略

近森会 **そると** 保育室

2月3日(水曜)、「そると」に赤鬼と青鬼がやってきました!



編集室通信

先日うどん学校に行って来た。学校ではリズムを大切にしている、粉を混ぜる時や、コシを出す為に生地を踏みつける行程では、ノリッノリの音楽が流された。寒い季節だというのにうどん生地の上で踊り狂う生徒達の光景はなかなかのものだった。「うどん作りはエクササイズ」美味しかったので、家でも作りたいと思っている。ゆのす

2016年1月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	17,324人
新入院患者数	930人
退院患者数	821人
近森病院(急性期)	
平均在院日数	16.97日
地域医療支援病院紹介率	66.24%
地域医療支援病院逆紹介率	134.89%
救急車搬入件数	558件
うち入院件数	286件
手術件数	465件
うち手術室実施	294件
うち全身麻酔件数	183件

● **2016年1月 県外出張件数** ●
件数 33件 延べ人数 50人



大好きなおばあちゃんの行動基準

ずっと隣りに住んでいた祖母の存在が、まるで「看護学校の先生になるために育ってきた」ような竹村先生を知る大きな手がかりになるようだ。

先の大戦の時代に青春を過ごした祖母が、結婚した相手には二人の子。実子二人も生まれ、近頃では珍しい大家族を切り盛りした肝つ玉ばあちゃんは、どんな場面でも、実子よりまず義理の子、「自分より相手」を行動の基準にしていたように、多加さんの目には映ったようだ。

口癖は「見返りのために何かをするわけではない。そういうことを抜きに想いを込めるべき」。耳の奥にはおばあちゃんのこの言葉が残っている。

これが、やがて大人になる多加さんの行動基準にもなっていったようだ。そのおばあちゃんが、ひじいちゃんを自宅で看取り、母親がおばあちゃんを自宅で介護し、看取りまで経験するなか、その頃、看護学校の教員になっていた多加さんはなにものにも代え難い日々を紡ぐことになる。

自宅での看取り

看護の仕事をしたいと、小さい頃から思っていた多加さんが、いざ進路を決める段階で、その希望を伝えたとき、「3K」の辛いイメージが先行していた当時、両親は猛反対。だが、子どもの頃から「心の基地」にもなっていた大好きなおばあちゃんだけは賛成し、応援もしてくれた。

自分の価値観を行動で孫に伝えてきたおばあちゃんにとっては、自分の職

スタッフの頑張りに感謝！

業を「主体的に」選択できた孫が、さぞ頼もしく映ったことだろう。

何の見返りも期待はしないが、そんな風に育ててくれた孫は、愛しくてたまらない存在だったのではないか。しかも、その孫に自宅で見取られたのだから、これ以上の納得のいく人生はなかったといえるのではないだろうか。

看護教員養成課程への道

現場で看護師として働き始めて10年ちょっと過ぎた頃。「患者さんの存在が一番と思い、その人にとっての看護とは何か、もっとも何かあるはず…と悩んだ。慢性疾患で病状に変化がないからこそ、その人らしい生き方とか、家族への看護とか、あまりにも難しい課題が多く……。ただ、新しいことへの挑戦がしづらかったし……」。

で、悩みを抱え、先輩ナースに何度も率直な相談。看護の在り方自体を深く考える基盤ができたのも、きっと当時の国立系病院の恩師の皆さんの存在が大きかったのではないだろうか。

そんな悩める日々を過ごす折、当時の総看護婦長さんから「腑に落ちない点に悩むなら、看護の道をもっと究める方向に進んだ方がいい」と勧められた。一人娘は当時、小学5年。実家の親の全面的な協力を得て「とりあえず一年の限定つき」で厚労省看護研修研究センター看護教員養成課程に進学。全国から集まる「看護の道を究めたい人々」に囲まれ、有意義で刺激的な日々を必死で過ごし、その経験が今日の教員生活のベースにもなっている。

ちょうど「新しい教育を考えなさいよ」という移行期でもあり、業務に流されるだけではない、「看護の勉強の必要性にもかられた(笑)」こともあり、留学は大いに身に付き、以後の実践にもそのまま繋がったのだろう。

価値観が共有できる喜び

某大学医学部附属病院救急救命センターで看護師のスタートを切り、高知県に戻って現場看護師を10年余り務

▼オフには大好きなお酒を呑みつつつろぐが、最高のオフはやはり最愛の娘と過ごすひととき



めて以後、看護教員養成課程への流れを経て、国立系で看護師の先生の道を続けていた。

現場が恋しいと現場看護師に復帰した時期もあったが、やはり「発想が教員」とでもいうのか、現場スタッフや実習生に「まるで先生みたいな指導をしてくれる」と喜んでもらえるようなエピソードを重ね、「やはり教員の道が自分らしいのかなあ」と思い始めた頃、ピッタリのタイミングで近森オルソリハビリテーション病院の尾崎看護部長に紹介され、近森病院附属看護学校の立ち上げに関わることになった。

尾原副校長は、看護学校時代の恩師であり、看護学校の先生方や事務職員^{たのくる}の皆さんにも支えられながら、「楽苦しく」(笑) 過ごす毎日。そんなスタッフに囲まれて、価値観が共有できる喜びを実感できるのが嬉しい。

第54回 チカモリ・シネマクラブ

少子高齢化社会に向けて

近森病院心臓血管外科

部長 入江 博之

高齢化先進県である高知県では少子高齢化が日本の他の地域よりも早く影響が出ると考えられています。今回は高知県出身でつい先頃厚生労働事務次官を退官された村木厚子さんをメイン講師にお迎えすることができました。

【第一部】

昨年夏に新築移転した近森リハビリテーション病院の和田恵美子医師より最新の設備やリハビリの説明をして頂きました。それに続き、年をとっても身体能力を高く保つために、日頃我々が気をつけるべきことに関しての詳しい話がありました。特に、高齢者向けのスクワットによるトレーニングならびに体操の実演などもあり、会場を大いにわかしてくれました。

【第二部】

少子化の現状について一見難しそうなデータを大変わかりやすくかみ砕いてお話し下さいました。戦後の第一

次ベビーブームの人たちが、第二次ベビーブームを生んだが、残念ながら第二次ベビーブームの人たちは第三次ベビーブームを生まなかった。こうした社会構造の変化が大きく現在の少子高齢化に影響していることがわかりました。今後、経済成長と労働参加が適切に進まなかった場合、2030年までに最大790万人の労働力が不足すると予測されています。しかし、これを女性の参画などにより、調整が適切に進む場合は180万人程度に抑えることができるといったお話には驚きました。

【最後には・・・】

無実の罪で逮捕・拘留されたご経験にふれられました。拘留所と病院は大変似ているそうです。どちらにも共通しているのは、ある日突然自分の状態が変わり、

(1) 突然自由が制限される特定の空

間から出られなくなること。

(2) 乗り切るためには家族のサポートが大変重要なこと。

(3) プロフェッショナルの力を借りなければいけないこと。

(4) 自分の努力も必要なこと。

といった、鋭い分析を披露され一同大いに納得しました。

今後、高齢化社会を楽しく生き抜くためには、自ら筋肉を使う、栄養等に気をつけるといった自分で気をつけること、そして、社会として気をつけていくことの問題が明らかにされた講演会であったと思います。会場ほぼ満席となりました550人の参加者の方も大変満足された様子でした。

いりえ ひろゆき



▲村木厚子氏(左)と筆者▼大盛況の会場



▲村木厚子氏



▲和田恵美子部長

図書室便り (2016年1月受入分)

- Emergency Medicine Procedures 2nd Edition / Eric F.Reichman
- 整形外科・病理悪性骨腫瘍取扱い規約 2015年11月第4版 / 日本整形外科学会 (他編)
- 睡眠障害の対応と治療ガイドライン第2版 / 睡眠障害の診断・治療ガイドライン研究会 (他編)
- 胃癌・乳癌HER2 病理診断ガイドライン第1版 / 日本病理学会 (編)
- 嚥下障害診療ガイドライン 耳鼻咽喉

科外来における対応 2012年版 / 日本耳鼻咽喉科学会 (編)

- 平成27年版看護白書少子超高齢社会に期待される看護の人材育成:いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護 / 日本看護協会 (編)
 - 今日から使える医療統計 / 新谷歩
 - 実践病院原価計算第2版 / 渡辺明良 (編著)
 - Quality Indicator 2015「医療の質」を測り改善する聖路加国際病院の先進的試み / 聖路加国際病院 QI委員会 (編)
- 《別冊・増刊号》

●別冊医学のあゆみヒト免疫学の新機軸 / 山本一彦 (編)

- 臨床精神医学 2015年増刊号精神科臨床評価マニュアル【2016年版】 / 「臨床精神医学」編集委員会 (編)
- Emergency Care 2016年新春増刊看護師・研修医・臨床工学技士のための救急ICUのME機器らくらく攻略ブック / 三木隆弘 (編著)

《視聴覚資料》

- Audio-visual Journal of JUA Vol.22 No.1 / 日本泌尿器科学会 (監)